



松庵だより

第707号 5月号
令和6年5月 1日
杉並区立松庵小学校



「 わくわく どうして? どうなるの? 」

副校長 鈴木 利子

職員室から見える校庭の木々は、日に日に緑を増し、隣の畑や電柱が見えなくし、新緑の季節を迎えたことを感じさせます。毎日、少しずつ枝を伸ばし、葉を大きくしている様子は、子供たちが、目標に向かって一步一步力強く進んで行くやる気あふれる姿の様に感じます。

松庵小学校には、手入れをされたたくさんのお花や草花が植えられています。先日、3年生が校庭で、ルーペを片手に春見付けをしていました。「副校長先生、よく見て。この花びらには、水色の部分もあるよ。」と、絵を見せながら話してくれました。じっくり観察をしたからこそその発見があったのでしょう。別の子が、ビオラの葉が虫に食べられているのを見て「わ～、虫がいる。花がかわいそう。」と言うので「でも、この虫はきれいな蝶になるよ。」と話す。「花を守るか。蝶を守るか。」と考える姿がありました。この数日後、「副校長先生ちょっと来て。」と、呼ぶので一緒に行くと「さなぎになったよ。」と教えてくれました。その後、ずっと気にして観察していたのでしょう。その様子を想像すると、嬉しい気持ちになりました。また別の日には、6年生の先生が、子供の自主学習ノートを見せてくださいました。1年生のお世話をしたことからお世話をしてもらった6年前のことを思い出し、相手の1年生を思いやり行動した様子や気持ちの変化を素直に綴ったもので心が温かい気持ちに包まれました。

子供たちの日頃の様々な様子から、子供たちの心が動くとき、その子自身の学びが始まることを強く感じます。「自然」や「人」、「文字」、「映像」など様々なところで、五感を使って感じる「わくわく」や「どうして?」、「どうなるの?」の気持ちです。この「学びの種」ともいえる心の動きを、今年もさまざまな本物との出会いや人との出会い、体験活動の中でたくさん感じてほしいと思います。

松庵小学校では、子供たちの「おや?あれ?」と思った「学びの種」を、更なる学びに深められるように校内研究として、「目的意識をもち学習に臨み、自分なりの学び方で学習を深める児童の育成」をすすめています。学習の中で、自分自身の学びを選択し、計画し進めていく力、「何を、いつ、どのくらいすすめるか」という学習をデザインする力です。

人生100年時代を生きる子供たちにとって、自分を高め続け学び続けることは、人生を豊かにします。小学校時代に、日々の学習の中で、日常生活の中で、様々な経験の中で、「学びの種」をたくさん蓄えることは、可能性を広げることになります。

今後も引き続き、ご理解・ご協力をお願いいたします。

生活目標

「みんなとなかよくする」

松庵小の子供たち全員がなかよく生活するために、守ってほしいルールが「松庵スタンダード」です。四月に全児童に配布し、連絡袋の中に常に持っておくきまりになっています。登下校、学習、休み時間、給食、放課後、持ち物、SNSの利用などの約束について書いてあります。進級して一か月たった五月だからこそ、持ち物の揃え方や時間の使い方について今一度振り返りながら、親子で一緒にもう一度読み直してみてください。